vol.631 2024 / 1月号 みやぎの福祉の情報誌

福祉みやぎ

CONTENTS（主な内容）

P2 特集
地域共生社会を目指して
令和5年度第1回宮城県地域共生社会推進会議を開催しました

P4 Heart&Works
高齢者福祉施設が行う地域の活動拠点づくり

P6 ひとまちこころ
こども園から小学校へのスムーズな移行に向けた取組

P7 グッジョブFUKUSHI
株式会社ジェー・シー・アイの事業所紹介

P8 ちいきをつなぐ
『蔵王町宮地区　みやまちなかプラザ』の紹介

P10 宮城いきいきシニアだより
「ねんりんピック愛顔のえひめ2023」レポート

P12 県社協掲示板

作　者　後藤　みどりさん（宮城県船形の郷かまくら園）

タイトル：「たつ年の夢 」
新しい年も楽しいことをいっぱいしたいです。

特集

地域共生社会を目指して

令和5年度第1回宮城県地域共生社会推進会議を開催しました

令和5年11月21日に開催した宮城県地域共生社会推進会議（以下「本会議」という。）は、地域共生社会の実現を目指し、令和4年2月に宮城県と本会が共同して立ち上げたプラットフォームです。今回は、「みやぎの地域共生社会の方向性」を再確認するとともに、県内の取組事例から、地域共生社会の形成に向けたヒントを学びました。

みやぎの地域共生社会の方向性について

はじめに、本会議の会長である村井嘉浩宮城県知事（代理 志賀保健福祉部長）から御挨拶いただき、次いで、本会議の副会長である本会宮川耕一会長から「みやぎの地域共生社会の方向性」を説明しました。

- 「おたがいさま」「少しのおせっかい」の機運を広げ、互いに気にかけ合う関係性の創出や、地域資源の有効活用によって支援の幅を広げる必要があること。
- 東日本大震災の経験から被災地に浸透した「互助」「共助」の意識を、全県下で展開していく必要があること。
- 県内で地域共生社会の実現に向けた機運を高めるためには、福祉以外の団体も巻き込んでいく必要があること。

▲宮城県社会福祉協議会　宮川耕一会長

事例報告

地域共生社会のキーワードである「多世代交流」や「他分野との連携」が進んでいる事例について、3団体から御報告いただきました。また、ファシリテーターとして、認定特定非営利活動法人「杜の伝言板ゆるる」副代表理事の真壁さおり氏に各団体の活動のポイントをまとめていただきました。

●認定特定非営利活動法人
あかねグループ
理事長　清水　福子　氏

経緯と主な活動

子育てを終えた主婦たち有志10人が集まり、1982年に「あかねグループ」を発足。ホームヘルパーが訪問先の一人暮らしの高齢者の「もやし一皿」の食事を見て「何とかしたい」との想いから、老人給食配食サービスを始めた。現在は配食サービス事業を通じて、高齢者や障害のある方などにお弁当を配達しているほか、サロン活動として、平日に日替わりのランチや軽食などを提供している。また、月に一度、子ども食堂「あかねちゃんの家」とコミュニティカフェを開催している。

●社会福祉法人角田市社会福祉協議会
事務局次長兼係長
岡本　圭一郎　氏

経緯と主な活動

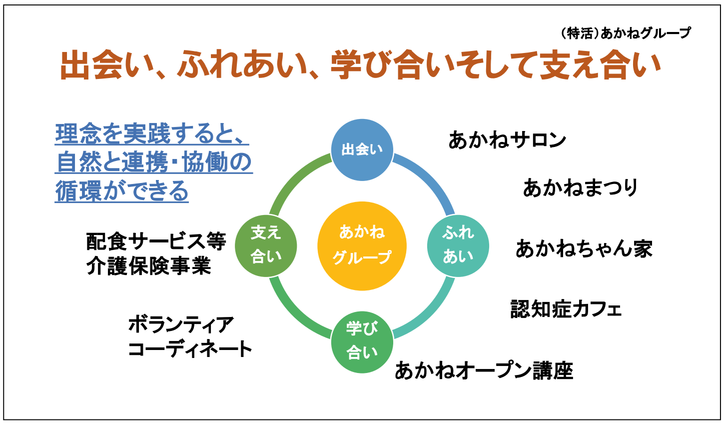
新たな取組を模索していたところ角田市シルバー人材センター（以下「シルバー人材センター」という。）から、街中の空き店舗を活用して、「何か一緒にやらないか」と声を掛けられたことがきっかけとなり、角田市社会福祉協議会（以下「角田市社協」という。）とシルバー人材センターが共同でアンテナショップ「憩」を運営し、平日にコーヒーやお茶の提供、自主製品の販売等を行っている。また、管理はシルバー人材センターの会員が中心に行い、角田市社協が指定管理を受けている「障害者就労支援施設のぎく」の利用者が週3回販売作業を行っている。

●一般社団法人
イシノマキ・ファーム
ソーシャルファーム部門
部門長　池田　新平　氏

経緯と主な活動

東日本大震災後、現代表理事が石巻市で子どもの不登校やひきこもりが激増していることを知り、高校生や若者に就学・就労のサポートと心のケ

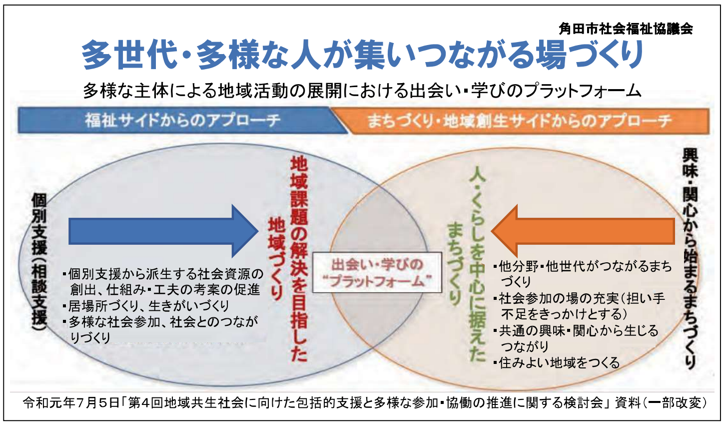
アを行うことを目的に、2016年に農業に特化した就労支援事業を設立。現在は、不登校やひきこもりなどの若者の就労の場として、ホップ、さつまいもの栽培、栽培に係る6次化商品製造や、ビールの醸造に係る補助作業を行っている。また、石巻市農業担い手センターでは、就農を希望している人に合わせた就農支援や、仕事に就けていない若者を対象に1週間泊りがけで農業に触れてもらう農村留学プログラムを行っている。



▲認定特定非営利活動法人あかねグループ　活動のポイント（真壁氏作成）

事例報告の様子①▶

◀事例報告の様子②

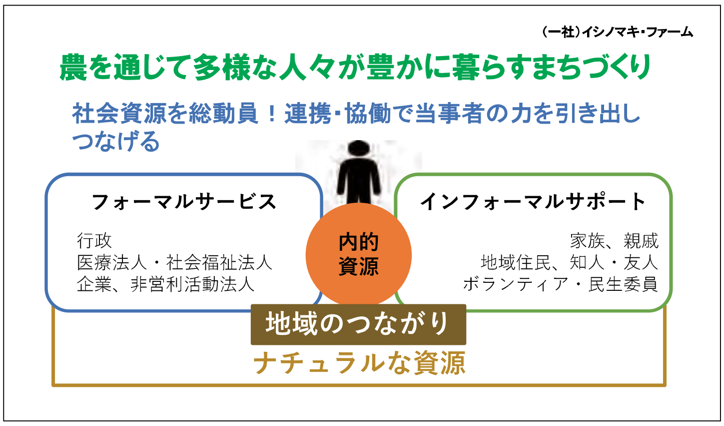


▲社会福祉法人角田市社会福祉協議会　活動のポイント（真壁氏作成）

●認定特定非営利活動法人
杜の伝言板ゆるる
副代表理事　真壁　さおり　氏

総評

真壁氏からは、それぞれの活動について「大切にしている想い（意識）」と「自分たちの活動にどうやったら活用できるか」という視点から解説をいただきました。地域住民とともに行う地域づくりの価値や、他団体との連携、農業と福祉のような他分野との連携の意義を確認することができました。



▲イシノマキ・ファーム　活動のポイント（真壁氏作成）

令和5年度宮城県地域共生社会推進会議の取組について

最後に、事務局から本会議の取組を説明しました。具体的な議論を深めるため、構成団体からなる専門部会に、3つの分科会を設置しました。各分科会のテーマは下記のとおりです。

❶地域の課題解決分科会
・コミュニティソーシャルワーカー等の実情調査と活動支援

❷市町村支援及び普及・啓発分科会
・重層的支援体制整備事業等の実施に向けた取組支援
・構成団体及び福祉以外の団体（企業等）の活動促進に向けた普及・啓発

❸地域における社会資源調査分科会
・各地域の地域資源を調査・データベース化

今後も、本会では「宮城県地域共生社会推進会議」を通じて、様々な主体による地域共生社会の実現に向けた取組が、さらに活性化するように努めていきます。

ハート　アンド　ワークス
Heart & Works

高齢者福祉施設が行う地域の活動拠点づくり

～特別養護老人ホーム松陽苑から広がる地域交流～

平成28年の社会福祉法の改正により、社会福祉法人の責務として「地域における公益的な取組」が位置付けられました。宮城県内の社会福祉法人においても、各地域の実情や福祉ニーズを踏まえ、法人の自主性、創意工夫を凝らした、多様な地域貢献活動を展開しています。

今回は、積極的にこの取組を実施している社会福祉法人宮城福祉会の松川弘理事長に特別養護老人ホーム松陽苑の取組についてお話を伺いました。

松陽苑について

松陽苑は令和３年６月に、元々あった場所から名取駅に程近い住宅街に移転しました。入居者の方々に明るく健やかに暮らしていただくために、「モイストプロセッサー※１」や「無線調光システム※２」などの設備を導入しています。他にも、「眠りスキャン※３」や「インカム※４」などの様々な設備を導入し、入居者が快適に生活できるようサポートするとともに、介護スタッフの負担軽減を図っています。

▲特別養護老人ホーム「松陽苑」

▲社会福祉法人宮城福祉会
松川理事長

取組のきっかけ

松陽苑の移転が決まった際に、移転先の地域の方々に、地域の状況や抱えている課題などを伺いました。その結果、「住民が集まることができる場所が少ない」「気軽に集まれる場所がほしい」といった要望がありました。それを受け、施設を改築する際に、誰でも気軽に利用できる「地域交流スペース」と「Café ぴのそーれ」を施設内につくりました。

地域貢献活動について

● 地域交流スペース

地域交流スペースは、映像の配信・視聴ができる設備や、採点機能付きカラオケなどの設備を備えています。入居者の日中活動に利用しているほか、地域の方々も幅広い用途で利用できるようにしています。例えば、民生委員の方々の会議や、子ども食堂のための打合せなどで利用していただいています。地域には公民館がありますが、予約が重なって利用できないこともあります。そのような場合にも気軽に利用していただきたいと思います。また、今後は地域の方々と入居者との交流の場にもしていきたいと考えています。

▲地域交流スペース

● Café ぴのそーれ

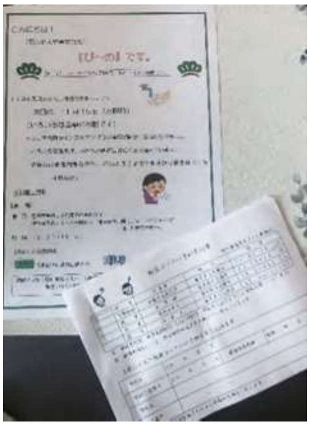
店内は木目調で暖かな日差しが入るつくりになっており、落ち着いて食事や会話を楽しめるスペースとなっています。また、こだわりのメニューを低額で提供しており、食事をしながらゆったりと過ごせる環境です。入居者と家族の面会時にも利用できるほか、地域の方々にも利用していただいています。利用している地域の方々からは「落ち着いた雰囲気で良い」「居心地が良い」などのほか、車椅子の方からは「店内に段差がないため安心して利用できる」という感想をいただいています。

▲Café ぴのそーれ内観
イタリア語で「ぴの」＝松、「そーれ」＝陽。
松陽苑の名前が由来となっています。

◀ランチメニュー

デザートと
ドリンクセット▶

ここでは、利用者のご家族や地域の方々を対象として「認知症家族等交流会」や「講話」などを開催して、福祉に関する普及・啓発を図っているほか、相談コーナー予約申込書を設置して、施設に在籍している介護支援専門員や看護師、管理栄養士等の専門職への相談を受け付ける窓口としての機能も持たせています。介護支援専門員は介護保険制度に関する幅広い相談に対応できるほか、看護師は高齢者特有の疾患や適切な診療科の選び方、寝たきりにならないための予防など、管理栄養士は介護食の作り方や嚥下状態に合わせた適切な食事形態、高齢者に特に必要な栄養や食材などについての相談に対応できます。高齢者施設内にあるカフェであり、地域の方々への周知には課題がありますが、広く知ってもらい活用していただきたいと考えています。



▲講座、相談コーナー案内

今後の展望

開店時から新型コロナウイルス感染症の影響があり、活動の幅に大きな制限がありました。今後は、感染症の予防には十分留意した上で、子ども食堂や、学生ボランティアによる子どもへの学習支援などの活動にも取り組んでいきたいと考えています。

取材を終えて

「地域交流スペース」は、地域の方々が気軽に集える場であり、民生委員の方々の会議で使用されるなど、様々な活動を側面から支える場になっているという印象を受けました。また、「Caféぴのそーれ」は地域の方々が食事や会話を楽しめる場になっており、今後は地域の方々と入居者の交流の場にもなっていくことが期待できると感じました。松陽苑では、集いの場として高齢者施設を地域に開放したり、施設に在籍している専門職を活用して相談を受け付けていたりと、入居者だけではなく、地域全体の福祉の向上につながる取組を行っています。まだまだ地域の方々への周知が十分ではないとのことでしたが、今後、周知が図られ、地域の様々な活動の拠点として「地域交流スペース」や「Caféぴのそーれ」が活用されていくことを期待したいと思います。

（県社協取材）

お問い合わせ

●**特別養護老人ホーム　松陽苑**
（住所）名取市手倉田字八幡80番の1
（電話）022-384-3663

●**Café ぴのそーれ**
（営業日）火曜日から金曜日
（営業時間）11時から14時30分
＜ラストオーダー14時＞

※1 一年を通して湿度を一定に保つ空調方式。

※2 自然光に近い調色で光をコントロールして体内時計を整えるシステム。

※3 ベッド利用者の体動を測定できるセンサーにより、離床動作をリアルタイムに検知し、見守りカメラとの連携で転倒を予防する安心システム。

※4 離れた場所でも職員同士で会話ができる、Wi-Fi型インカムコミュニケーションシステム。

ひとまちこころ

こども園から小学校へのスムーズな移行に向けた取組

～ 交流による様々な学び ～

こども園と小学校との交流の意義

宮城県伊具郡丸森町には、元々は複数の公立保育所がありましたが再編され、現在は民営のこども園や保育所が4か所設置されています。その中の1つが、丸森町社会福祉協議会が設置主体となり、平成31年4月に開園した「丸森ひまわりこども園」です。

丸森ひまわりこども園では、近くの小学校と連携し、交流する機会を定期的に設けています。このことについて、丸森ひまわりこども園の佐藤千賀子園長は「町に公立保育所があった時から、保育所と小学校の先生が集まる機会があり、連携・交流する必要性は互いに理解していた」と話します。佐藤園長によると「遊びを通して様々なことを学ぶこども園と、教科ごとの授業を受ける小学校では生活の流れが大きく変わる。その変化に子ども達が適応するのは簡単ではない」とのこと。入学後、小学校での生活に馴染めずに不安定な状態が続いたり、授業中に座っていられなかったりする「小1プロブレム」が一般的に問題とされていることもあり、「こども園と小学校との交流の意義は大きい」と佐藤園長は話します。

▲交流会の始めの挨拶（年中児と２年生）

交流による子どもや先生への影響

佐藤園長によると「現在は主に年中・年長児と小学1・2年生との交流機会を設けている」とのこと。交流の内容は、小学生の手づくりのおもちゃで一緒に遊んだり、園庭や道端などに咲く草花を使用したフラワーアレンジメントを行ったりと様々です。その中で、年長児が小学校に行き、1年生の授業を見学する活動は毎年実施しており、活動後に園児が「算数を頑張りたい」「理科の実験をやってみたい」など話すことがあるとのこと。このことについて、佐藤園長は「授業の様子を見て、小学校入学後の自分の姿をイメージしているのではないか。実際に小学校に行くことで、入学への期待と意欲が高まっているように感じる」と話します。

以前、佐藤園長が小学校で授業や行事等を見た際に、「学校教育へ滑らかに繋げていくためには、こども園で行う幼児教育は『興味を持ったこと、やってみたいこと』が体験できるような時間を十分にとり、夢中で取り組むことができる環境を整えてあげることが大事であると感じた」とのこと。こども園から小学校への学びの連続性をもたせるために、「こども園や小学校でどのような活動を行っているのか、先生方が互いに知ることが重要」と佐藤園長は話します。佐藤園長の言葉から、こども園と小学校の交流は、子どもだけではなく先生にも良い影響があると感じました。

今後に向けて

丸森ひまわりこども園では、年長クラスになると小学校と同じ机を使用し、掃除する際は机を運ぶなど、小学校での生活を想定して過ごしています。このような環境面の配慮にも、卒園した子ども達が小学校での生活に早く慣れて元気に過ごしてほしいという、こども園の先生方の願いが込められていると感じました。

佐藤園長は「今後、こども園や小学校だけではなく、保護者や地域の方々も一緒になって、丸森町に合う交流・連携の体制がつくられていくと良い。その際はぜひ協力したい」と話します。就学後に子ども達がスムーズに環境の変化に適応し、小学校でも元気に過ごせるように、様々な立場の方々の参画による取組が進められることを期待したいと思います。

▲花紙を使った色水遊び（年長児と１年生）

グッジョブ

FUKUSHI

このコーナーでは福祉の仕事に関すること
団体などについて紹介します！

事業所インタビュー

株式会社ジェー・シー・アイ

〒981-3341　富谷市成田1丁目5-3　TEL 022-745-1311

今回は、株式会社ジェー・シー・アイを訪問し、福祉用具の販売やレンタル等で地域生活を環境面で支える立場から、取締役管理本部長の多田さん、総務・人事課の齋藤さんにお話を伺いました。

Q.事業の内容について教えてください。

多田さんへインタビュー

創業のきっかけは、創業者の一人が身体に障がいのある方の医療施設で働いていた事です。当時はバリアフリーという言葉もなく、障がいのある方が就労するということは偏見もあり困難を極めていました。そのような中、当時オーストラリアで障がいを持った方を積極的に採用し、福祉事業の先駆者として活躍されていた「センターインダストリーズ社」の経営理念を日本で実現することを目指して、1976年に創業しました。

当時は布オムツ等を病院に販売する業務からスタートし、その後、1978年にはオーダーメイドの車いすを製作するための工場を開設。試行錯誤を重ねながら、現在は宮城県内で補装具給付事業を通じて、車いすを必要とする多くのお客様に商品を提供させていただいております。また、介護保険制度の開始により福祉用具の貸与事業も開始し、お客様の在宅での自立した生活を支援できるよう努めてきました。

現在、営業種目としては医療・介護施設等へ消耗品や備品の販売、自社商品の製造・販売、福祉用具の貸与、オーダーメイドの車いすの製作、住宅改修事業を展開しています。

令和5年11月には新社屋を宮城県富谷市に建設して営業を行っています。今後も地域社会のお役に立てるよう、そしてお客様や社員の幸せのために努力していきたいと思います。

Q.この仕事を選んだ理由ときっかけを教えてください。

齋藤さんへインタビュー

私は中途で入社して、今年で５年目になります。人の役に立ちたいというざっくりとした思いから福祉の大学に進学しました。当時は福祉＝介護というイメージがあり、介護の現場について学んでいたのですが、自分の考えていた理想とのずれを感じ、一般企業に就職しました。仕事の楽しさを感じながらも、この仕事を今後も続けていくのか、という考えも生まれていました。そんな時期に縁があってジェー・シー・アイに誘っていただき、偶然学生時代の友人もこの会社で働いていることを知りました。友人に相談すると、「良い会社だから来なよ」という言葉が返ってきて、自分の会社を一言目で褒めることができる会社なら働いてみたいと感じました。また、大学で学んだ福祉に携わることができるということもあり、転職という大きな決断をしました。

２年半の営業職を経験し、現在は総務・人事課に配属され２年目になります。営業職の考えと会社の考えをうまく調整するパイプ役になれるよう、今後も多くのことを学んでいきたいと思います。

▲新社屋で齋藤さんに車いすを見せていただきました

編集者より

今回は、在宅や施設で暮らす方の生活が、より快適になるように、オーダーメイドの車いすや備品、環境を提供してくださる会社を取材しました。様々な会社や、人のサポートがあって、我々の暮らしが豊かになるということがわかりました。株式会社ジェー・シー・アイの皆さん、ご協力ありがとうございます！

令和5年度「福祉のしごとフェア」実施報告

11月7～8日、仙台市中小企業活性化センターで、ハローワーク仙台、宮城労働局との共同主催による「福祉のしごとフェア」を開催しました。

「介護職セミナー」と「事業所との面談会」を実施し、「介護職セミナー」には、1回目95名、2回目96名の計191名の方にご参加いただきました。

「事業所との面談会」には2日間で、昨年度の倍以上となる求職者194名、求人事業所107社にご参加いただきました。今後の就職活動と福祉人材確保の一助となれば幸いです。

X（旧Twitter）
フォローしてね♪
@miyagijinzaic

FUKUSHI-JOB SEARCH
福祉のお仕事
検索
https://www.fukushi-work.jp/

お問い合わせ
宮城県福祉人材センター
（TEL：022-262-9777）
介護福祉士・保育士修学資金等貸付専用
（TEL：022-399-8844）
ＨＰ　https://fukushi-miyagi-sfk.net/job/

ちいきをつなぐ

みやぎボランティア総合センターからボランティア活動や防災活動、福祉教育などさまざまな情報を発信します

蔵王町宮地区　みやまちなかプラザ

～地域住民で作りあげた〝交流の場〟が誕生～

令和5年8月1日、蔵王町宮地区の中心部に『みやまちなかプラザ』がオープンしました。この場所は、閉店した店を改装して、子どもから高齢者まで幅広い世代の地域住民や観光客が集う憩いの場として新たに生まれ変わりました。店主の方と宮地区住民で作りあげた『みやまちなかプラザ』ついてご紹介します。

『みやまちなかプラザ』誕生の経緯

宮地区で90年続いた鮮魚店『山形屋』が、令和5年3月末に閉店しました。店主の沼澤久夫さんは、「商店街だった場所がシャッター通りになってしまうのが寂しい、好きなことを続けながら地域のためにできることはないか」という思いから、行政区長や近隣住民と相談し、地域交流の場として活用することとしました。

その立ち上げに向けて、行政区長のネットワークの活用や地域住民からアドバイスをいただきながら、周りを巻き込み役割分担をして、それぞれができることに取り組みました。刺身や仕出しの注文販売を残しつつ、子どもたちが楽しめる遊び場として様々なスペースを作り、大人や高齢者もくつろげる場所を目指しました。こうして、沼澤さんら宮地区住民の〝地域の人や観光に訪れた人にも利用していただける、気軽に集まれる場所がほしい〟という共通の思いが形となり、令和5年8月1日に『みやまちなかプラザ』としてオープンしました。

▲左から行政区長：大谷さん　店主：沼澤さん　企画：佐藤さん

オープン当日に行われたセレモニーでは、町の関係者や多くの地域住民が参加し、新たに誕生した地域交流の場に期待が寄せられました。

地域の〝交流の場〟として

沼澤さんは『みやまちなかプラザ』への思いを次のように語ります。「自分一人では何もできませんでした。地域の皆さんに協力していただき、それぞれが得意なこと、できることを無理のない範囲で進めて、一緒に立ち上げた場所です。運営する私たちも遊びに来る人にとっても〝楽しい場所〟として地域に広めていきたいです。ここに来てくれる方々が自ら興味を持って、遊びに行きたいと思える〝自然に集まれる場所〟となるとうれしいです」

年々、住民が参加する地域の行事が減少傾向にあることが地域の課題です。このため、季節に合わせたイベントを開催することで、子どもから高齢者まで直接顔を合わせる機会を作り、地域行事の代わりとなることを目指しています。また、子どもの頃から地域の行事に参加することは、自分たちの地域への愛情が醸成されることにつながると考え、地域づくりの根幹を宮地区に浸透させていけるよう活動しています。

▲地域住民がくつろぐ様子

店内紹介

店内は季節に合わせて装飾されており、大きなビニールプールの釣り堀を中心に、金魚すくい・射的・輪投げ・

駄菓子コーナーがあり、錦鯉や鮎釣りの時期には、おとり鮎の販売も行っています。この遊び場を計画する時には、地域の子どもたちや自分たちの孫世代にもアイデアをもらいながら決めたそうです。また、子どもたちに遊びに来て楽しんでほしいという思いから、キッズカード（ポイントカード）を作成しました。来店する毎にポイントが付き、貯まると無料で射的ができたりプレゼントがもらえる等、様々な企画をしています。遊び場だけではなく、テーブルや椅子が設置されており、休憩所や会議・学習スペースとして利用できるほか座敷会議室も完備されています。実際に、自治会や商店街の会議等、地域の集まりの場としても利用されています。

▲手作りのパンフレット・キッズカード

▲駄菓子コーナー

地域の子どもたちだけではなく、世代を超えて大人や高齢者まで、誰もが、気軽に立ち寄れる場所を目指しており、「この場所をきっかけに高齢者も外に出る機会が増えて、世代関係なく住民同士が顔見知りになることで、地域のつながりを醸成していきたい」と沼澤さんは、思いを語ってくれました。

実際に利用した地域住民の反応

沼澤さんは「地域交流しながら遊べる場ができてうれしいといった声をたくさん聞いています。私も、来てくれる子どもたちの喜んでいる姿が印象的でとてもうれしいです。

オープンして日も浅いですが、人伝えで取組が広がり興味をもった小学校から連絡がきたり、近隣にある児童福祉施設の子どもたちが遊びに来ることもありました。世代だけではなく、障害の有無にも関わらず様々な人が集まれる場所です」とうれしそうに語ってくれました。

▲射的を楽しむ子どもたち

今後どのような場所にしていきたいか

「やりたいことやアイデアはたくさんありますが、まずはできることを1つずつ無理をしないで継続していきたいです。子どもたちを中心にみんなの意見を聞きながら遊び場を変化させたり、より良い場所となるように、これからも地域住民みんなで一緒に作っていきたいです。また、観光の休憩や子どもたちが長期休みに宿題をしたり気軽に遊びに来られる、また来たいと自然と思える場所を目指していきたいです」と今後の意気込みを語ってくれました。

誰か一人が単独で行うのではなく、地域住民主体で協力し合いながら、これからも宮地区や蔵王町のまちづくりを考えながら活動していくとのことでした。

取材を終えて

今回、お話を伺って〝地域の中にみんなが交流できる場がほしい〟という同じ思いを持った地域住民が主体となりつくりあげた『みやまちなかプラザ』がつながり作りのハブとなり、新たなつながりや地域資源の1つとして重要なピースとなってきていることを知ることができました。

これからもこのような活動が、宮地区だけでなく町全体に広がり、さらに活気のある町づくりにつながることを期待しています。本会としても、周知広報や蔵王町社会福祉協議会との連携を通して、応援していきます。

『みやまちなかプラザ』

営業日：木曜日から日曜日（祝日含む）
営業時間：9時から18時
住所：蔵王町宮字鳥井先1
電話：0224-32-2728

第35回全国健康福祉祭えひめ大会

ねんりんピック
愛顔(えがお)のえひめ2023

ねんりんを 重ねた愛顔(えがお) 伊予に咲く

令和5年10月28日(土)～31日(火)

シニア世代の健康と福祉の祭典

第35回全国健康福祉祭えひめ大会『ねんりんピック愛顔(えがお)のえひめ2023』大会レポート

「ねんりんを重ねた愛顔(えがお)伊予に咲く」をテーマに、スポーツ・文化・健康・福祉の総合的な祭典「第35回全国健康福祉祭えひめ大会」（愛称：ねんりんピック愛顔(えがお)のえひめ2023）が、令和5年10月28日から31日までの4日間にわたり、愛媛県20市町を舞台に開催されました。

全国から1万人近い選手が集まり、延べ約50万人が参加しました。宮城県からは17種目に18チームの計131名の選手を派遣しました。

世代や地域を超えて交流の絆を広げた大会の様子を紹介します。

いざ愛媛へ

宮城県選手団は総勢138名（役員7名含む）。総合開会式及びスポーツ交流大会や文化交流大会など17種目の競技に参加するため、10月27日に仙台空港から愛媛県に向け出発しました。大人数での移動となりましたが、大きな混乱もなく予定どおり伊丹空港に到着。そこから貸切バスに乗り換え、松山市に到着。移動時間も長く、疲労感もありましたが、駅や街中の至るところでは、横断幕やポスター、のぼり等が掲げられており、いよいよ始まる大会に気持ちが高ぶりました。

▲開会式入場行進

▲開会式入場行進
スタンドも盛り上がっています

翌日の総合開会式は愛媛県総合運動公園で開催され、本県選手団の古積るみ子さんによる選手紹介アナウンスのもと、堂々と入場行進しました。

式典では彬子女王殿下のご臨席とおことばを賜ったほか、地元出身の豪華なタレントが多数登場し、会場を大いに盛り上げていました。

宮城県チームの活躍

宮城県チームは複数の種目において上位入賞を果たしています。その一部をご紹介します。

初開催となったバドミントンでは、羽根っこ（大河原町他2市）チームが優勝、水泳女子50mバタフライで佐々木光子さん（角田市）が第2位、水泳男子25m背泳ぎで佐々木耆さん（塩釜市）が3位となりました。

そのほか、ダンススポーツ個人戦ラテンの部（チャチャチャ）で久我孝正さん・みき子さん（栗原市）、ゲートボール大郷（大郷町）チー

ムが優秀賞を受賞しました。
　その他の種目の選手たちも、惜しくも入賞は逃しましたが、全国の猛者を相手にいきいきとしたプレーを見せ、仲間たちとの交流を楽しんでいました。
　なお、愛媛県美術館で開かれた美術展では、工芸部門で及川雄一さん（仙台市泉区）が銅賞を受賞しました。入賞された皆様、誠におめでとうございます。
　大会終了後には、思い思いに観光を楽しんだりしながら無事、帰途に就きました。
　選手たちは、新型コロナウイルス感染症が5類に移行後、初のねんりんピックを思い切り満喫した様子で、有意義な時間を過ごされたようです。

▲銅賞受賞の及川雄一さんの作品「青釉三足盤」

▲ゲートボール「大郷」チームも粘り強く大健闘

▲右側が宮城県チームです

▲バドミントンチームは他県を圧倒して優勝！

▲ゲートボール「大郷」と「友ちゃんず」仲良く集合

▲迫力を感じた剣道の試合

▲水泳チームも個人で入賞！

▲明るく・楽しく・元気よく！
ソフトバレーボールチーム「DONDON」

来年は、鳥取県を舞台に開催されます。

International Care worker Program
仙台育英学園高等学校
外国人介護士
育成プログラム
詳細はこちらをご覧ください
学校法人 仙台育英学園
〒983-0045 仙台市宮城野区宮城野二丁目 4-1
Tel. 022-256-4141（代表）/ FAX. 022-299-2408

福祉みやぎ
vol.631
令和6年1月15日発行

県社協掲示板

宮城いきいき学園　令和6年4月入学生募集中です！

宮城いきいき学園は、生きがいと健康づくりのための必要な知識を身につける学びの場です。

内　　容：生きがいと健康づくりを目指し、地域社会に貢献できる人材として必要な内容を身に付けます。
対　　象：県内居住の60歳以上の方
場　　所：①仙南校　②大崎校　③石巻校　④気仙沼・本吉校　⑤登米・栗原校
※通学可能であれば、どの学校に申し込んでも結構です。
募集人員：各校30人
学 習 日：年間20日(2学年制)
入学金・受講料等：入学金：5,000円
受講料：20,000円(年間)
募集期間：令和5年12月1日から令和6年3月31日まで
申 込 書：本会ホームページ、各市町村の高齢者福祉担当課、生涯学習担当課、社会福祉協議会から入手できます。

第69回　宮城県社会福祉大会を開催しました

去る令和5年11月9日、仙台サンプラザホールにて第69回宮城県社会福祉大会を開催しました。今年は昨年までのコロナ禍対応よりも規模を大きくし、被表彰者、来賓、主催等、約250名の参加を得ての開催となりました。

本大会は、県内の地域福祉に関わる団体が一堂に会し、すべての県民が共に支えあい、安心していきいきと暮らせる地域社会の形成に向けて、これまで以上に連携・協力して取り組む決意を新たにするとともに、多年にわたり本県の社会福祉の発展に功績のあった方々を顕彰し、今後の本県における地域福祉の一層の推進を図ることを目的に開催しました。

記念講演では、東北大学大学院の小坂健教授による「コロナ後のみんなのウェルビーイング」と題して、新型コロナウイルスの変遷などのお話をいただきました。

会場ロビーでは、障害者就労施設による焼き菓子や装飾品等の販売を行いました。

▲授賞式の様子

宮城県社協のホームページはこちら
https：//www.miyagi-sfk.net

宮城県内の福祉施設･介護事業者向けの総合補償制度

宮城県地域福祉総合補償制度をご利用ください

ポイント1
社会福祉協議会の会員である社会福祉施設、介護サービス事業者が加入できます。

ポイント2
地元宮城県で加入手続き･事故対応･その他アフターフォローを行いますので安心です。

ポイント3
団体制度のため、有利な団体割引が適用されております。(一部適用外)

オンワード･マエノのサイトにリンクします。

お問合せ
社会福祉法人宮城県社会福祉協議会　TEL022-225-8476
三井住友海上火災保険株式会社　TEL022-221-3171
株式会社オンワード･マエノ　TEL022-762-9915

※この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。

「福祉みやぎ」は宮城県社協のホームページでもご覧になれます。
また、ご意見、ご感想、とりあげて欲しいテーマなどをお寄せください。表紙の作品も募集しています。

編集・発行/社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会　〒980-0011　仙台市青葉区上杉1-2-3　TEL 022-225-8476(代)　FAX 022-268-5139
印刷/株式会社ソノベ　奇数月15日発行　URL https://www.miyagi-sfk.net/